

1	審議会名	平成27年度 第2回安曇野市放課後子ども総合プラン運営委員会
2	日 時	平成27年11月12日 午後7時00分から8時05分まで
3	会 場	安曇野市役所本庁舎 共用会議室306
4	出席者	山田委員、戸塚委員、大林委員、山本委員、青木委員、藤澤委員、伊藤委員、宮下（光）委員、倉科委員、降旗委員、日高委員、二川委員、上兼委員、田中委員、森山委員
5	市側出席者	橋渡教育長、北條教育部長、蓮井生涯学習課長、小笠原社会教育担当係長、田村主任
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0 人 記者 0 人
8	会議概要作成年日	平成27年11月16日

協 議 事 項 等

<p>1、会議の概要</p> <p>(1) 開会</p> <p>(2) 教育長あいさつ</p> <p>(3) 会長あいさつ</p> <p>(4) 議事</p> <p>①平成27年度放課後子ども教室の現況について</p> <p>②平成27年度放課後児童クラブの現況について</p> <p>③三郷児童館増築工事の進捗状況について</p> <p>④今後の児童クラブ整備年次計画（案）について</p> <p>⑤今後の児童館整備年次計画（案）について</p> <p>⑥その他</p> <p>2、議事の概要</p> <p>《事務局より資料の説明》</p> <p>(1) 平成27年度放課後子ども教室の現況について</p> <p>(2) 平成27年度放課後児童クラブの現況について</p> <p>(3) 三郷児童館増築工事の進捗状況について</p> <p>(4) 今後の児童クラブ整備年次計画（案）について</p> <p>会 長：質疑を受ける。質問・意見のある方。</p> <p>委 員：高家児童館の状況につき、学校から1.5km離れているということで、それに伴う不都合、1年生が児童クラブに最初に来る時どんな対応をしているか。中央児童館に別れた教室を作る時どんな対応をしているか知りたい。豊科の学校の在籍数に対する比率が他地区より高い。理由があるのか。離れていることに対する対応を話してもらいたい。</p> <p>事務局：高家児童館は南小からかなり離れている。特に低学年の子どもに対しては途中まで学校の先生が見守りについて来て対応している状況がある。交通量の激しい道を渡らなければいけない。保護者から学校の中にあつたら一番良いとの話がある。来年度の児童クラブ入所説明会をした際にも、保護者は学校の中にあつたら非常に良い、遠くまで行かなくても良いとの話があった。なるべくその方向で考えていきたい。登録数は豊科南小は周りに住宅が建っており、他で児童が減少していく中、横ばい状態。児童クラブに関しては、年々利用したいという方が増えており、児童数が減ったから児童クラブ</p>
--

の利用者が減るということではない。年々増えていく状況。

委員：児童クラブから迎えに行くことはないのか。

委員：児童クラブからも迎えに行っている。通常は4月当初だったが、去年は顕著で、1・2年の児童が帰るのに40分くらいかかるが、途中の畑の焚火の所で遊んでしまったり、ハウスに行ったり、子ども同士で、ということがあり、学校が途中まで児童クラブが途中までで、大人の目があるような形で通年ではないが半年くらいやっていた。距離があるということで、特別支援が必要な児童も児童クラブを利用しているが、自分たちで児童クラブに来ることが困難であったり、保護者が不安ということで、現在デマンド交通あづみんを2名の児童は使って児童クラブまで毎日通っており、個別の負担がある。資料にもあるが、5年生、6年生までという声が年々強く保護者から聞かれる。特に長期休みだけでも使えないか、特に女子児童の母親からの訴えが強い。家に一人で置いておくことがとても不安という訴えがある。他の自治体では当たり前になっている所も多く、5・6年まで使えるということも視野に入れて考えて欲しい。

事務局：計画の中で5年、6年まで拡大していくということで考えている。6年生までを視野に入れた形でやっていきたい。

会長：他に意見のある方。無ければ協議を進める。

《事務局より資料の説明》

(5) 今後の児童館整備年次計画（案）について

会長：質疑を受ける。意見・質問のある方。

委員：児童館を利用している保護者からよく聞かれる声、最近児童の数は減っているが、来館者、児童館を利用している方は右肩上がりに増えている。大体年間9万人だが、今年は10万人くらい。乳幼児の未就園の保護者が、前は公園デビューだったが、最近は児童館デビュー。児童館が家庭以外で過ごす場として、大変利用が増えている。目的としては、児童館にお弁当を持ってきて、情報交換の場としたい。核家族であったりネット社会と言われる中、直接の係わりの中で他の保護者の情報を得たり。改善計画の中で他の自治体の話を例に出すが、塩尻市えんぱーくや長野のもんぜんぶら座では、一つの所に行けばファミリーサポート事務局と一緒にあったり、子育て相談の専門機関の方がいたり、子育ての中心となる所が商業施設の中に入っていたり、児童館という名前ではないが、子育ての核となる施設、社会資源が安曇野市にあるか。一番近いのが児童館であると思う。豊科、安曇野市の中心に児童館を作る計画があるのであれば、市の核となるような、ここに来れば子育てのある程度解決できる機能を備えているとより良い。もう一つ、高家児童館が無くなると説明があったが、地域住民の理解を。児童館の一つの特性として、地域の方が気軽に歩いて行ける子育ての場。高家地域の一つ今まであった児童館が無くなってしまう。数として一つ減ってしまうことをどう考えているか。北部児童館は是非。有明地域に新しく住まわれている方が多い。北部児童館は2階で畳の部屋。穂高の北側の地域の方は気軽にに行ける所が近くに無いと声が聞かれる。整った施設があれば良い。

会長：今の要望に対して。高家に無くなることに対して寂しいとの意見があった。

事務局：高家の場合、かなり老朽化し、今もなんとか使っている状態。新しく作った暁には丁寧に説明をしていかなければいけない。ただ、児童館を運営している先生方に聞くと、豊科の中央児童館が皆集まりやすく、良い場所なので、できればそこに建てなおして欲しいという話がある。ただ、敷地が狭いので、設計にもよるが、そこでやるとすれば児童クラブは完全に切り離さないと無理とのこと。児童クラブは別にし、新しい用地は確保しなくても、そこでなんとかか上手い設計で核となるような児童館

ができれば良いと考えている。近くに新たな用地が確保できればそれは良いが、できれば報告書にあるように、あの場所が良いとのこと。なるべくそれを尊重し、現地で建て替えることができればと考えている。北部は今意見があったとおり、遊ぶ所が2階の畳の部屋しかない。外に出ても庭がない。小さな子どもは遊べるが、小学生や中学生は全く遊ぶ余地が無い。児童館は0歳から18歳まで児童の育成が目標。他の児童館に行くと小学生や中学生も遊びに来ている。その対応もしなければならない。有明は人口も増えているので良い場所に用地を確保し、皆が来れる児童館を作っていければと考えている。

委員：色々な機能を持った児童館、市の子育ての拠点となる施設という点についてはいかがか。

事務局：新しく作る児童館なので、当然子育ての機能、相談機能、皆が集まって講座ができるような場所と思うが、この場所が良いという所とどのように折り合いをつけていけば良いか。場所は今建っている場所が非常に利用者も、厚生員も言っているので良いと思うが、あの場所で子育て機能全て充実したものができるといって、検討が必要。現地改築もあり、新たな土地も探すということで、今はっきりどちらかとは言えない。やはり新しく作るのであれば、子育ての核になるようなものを作っていかなければいけないと考えている。

委員：保護者から、場所が分かりづらいということと、北側から入っていく道は大変細い。児童を連れて車で保護者が来る時には、場所は入ってしまうと公園も隣接されていて良いが、車で連れて来づらいつつ、近い方は良いが、よく言われるのでそうした意見も参考として欲しい。

事務局：平成24年に検討していた時は、そこまでの構想は無かった。5町村が合併をした中で、既存の施設をどうしていくかという視点で行われた。そういう意見もあったということであれば、場所を含めて検討が必要になってくる。豊科地域の周辺の中でどこか、建て替えというイメージを持っていた。市全体となると、アクセス、今の場所で果たして良いのかとなると、整備が先になる可能性も出てくる。そういう意見が更にあるのであれば、練り直しが必要と考える。基本的には今の高家児童館で行っている児童クラブをまず改修し、その次にという整備の計画。市全体の子育ての核になるようなものとなれば、見直しも必要。保護者の意見等聞く中で、今のところはこの計画で進めていきたいと思っているが、意見等あれば聞かせてもらいたい。

委員：児童クラブの子どもで放課後子ども教室を使っていると、児童クラブを使わない日が水曜日出てくるが、放課後子ども教室や学習室が増えていくことによって、児童クラブの利用、登録数が減っていくと現場としては見ている。今後放課後子ども教室や学習室が1週間に1回ではなく、増えていく可能性もあるのか。

事務局：わいわいランドの関係だが、週1回行っているが、検討として週2回もどうかと考えたが、主にやっているコーディネーターと教育活動サポーターがボランティアの方で、週1回でも人数が足りない。1回以上の実施は現在のところ難しい状況。今のところ週1回で考えている。

事務局：放課後学習室については、基本的には今4年生以上を対象にしている。児童クラブとは重ならない。将来的に5年生、6年生までとなると、重なる可能性も出てくる。放課後学習室の在り方そのものが、小学校高学年を対象としているが、先日中学生議会でも中学生に質問をいただき、中学生も対象としたような放課後学習室や土曜日、違う曜日の学習支援の充実の話をいただいた。放課後学習室の在り方は見直しを図っていききたい。現状のままで良いのか、検討していききたい。その中で平日の放課後に更に増やしていくのは難しい。土曜日のような形が考えられる。すぐにどういう方向かは出ないが、いかにわいわいランドや学習室、児童クラブの皆さんが上手く利用できる形を更に研究していききたい。

委員：子どもたちの居場所として、児童クラブだけではなく、放課後も安心して居られる場所があることによって、児童クラブを登録しなくても安心して児童を預けることができる。保護者が選択ができる。将来的には児童クラブとも連携を取りながら子どもの居場所を考えていただきたい。

委員：今急務なのは児童クラブか、児童館か。児童クラブ、保護者が預けられる場所の数、キャパシティーが足りないという問題が大きいか。それとも自由来館、児童館の機能が足りないのか。前者ではないか。学校の空き教室を使ってもやるようにと、5・6年生が増えるということもあり、学校に隣接することが必要と根本にあるかと思うが、どちらが急務か。

事務局：児童クラブが急務です。今どこの児童クラブでもなんとか4年生までは受け入れができていて、6年生まで受け入れられるかという、受け入れられる所は数が限られてしまう。全体的に6年生まで受け入れられるようにするには学校の空き教室等を使いながらやっていくのが一番早い。やらなくてはいけない課題となっている。それに付随して児童館という形。どちらが先かというのは難しい。児童館も大切だが、やはりニーズとしては児童クラブを充実して欲しいというのが保護者の意見。

委員：学校の教室活用という案があまり無い。実際に必要となってくるのではないか。

事務局：教室の活用について、今まで子ども支援課でやっており、教育委員会に持ってきた方が活用について具体的な話ができるのではということだが、社会教育と学校教育では距離がある。学校教育や現場と話を詰めていきたい。

会長：関連していかがか。無ければ(6)その他へ。

(6) その他

会長：今までの(1)～(5)までの内容、又はそれ以外についても結構、意見・要望等を。

委員：安曇野市として公民館の整備ができないと、子育てにしる母親が集まる場所にしろ、塩尻のえんぱーくの話も出たが、松本のMウィングもそうだが、中央公民館の機能があって、そこで保護者が集まってコミュニケーションをしながら色んなことができる場所があるが、安曇野市はそういう大きな捉え方が、何を考えているのか。子育てについては部署が違うが、松本市はこどもプラザをいくつか持っている。そこでかなり賄ってやれるようにしている部分がある。児童館・児童クラブとは別のこともかもしれないが、広く考えてどちらにでも上手くできるようなものを、建物を作る場合は考えていただいたほうが良いと感じる。

事務局：安曇野市では旧町村時代に建てられた公民館等が維持されてきている。各公民館については、現在堀金と三郷の公民館の改修工事、併せてそれより前から豊科の公民館については耐震補強と耐震工事を行いながら利用しやすいような環境を作る、バリアフリー化等を進めるという形で進んでいる。子育て等についても公民館を有効活用していただければ身近な所でそういうことができるような形ができる。ご要望があれば、出していただきながらサークル等作っていただければ公民館等は有効に活用していただけたらと思う。

委員：安曇野市の規模からして、5つの地域の公民館を今話しているが、それ以上に、もう少し身近な公民館を考えていかないと、コミュニティーをという話になった時は少し距離がありすぎる。穂高にしても、穂高の公民館がある。有明から豊科に近い方まで全部がその公民館、地区の公民館は区の公民館と機能が違う。区の公民館の機能を区民が上手に、自分の区の運営を考えるようなコミュニティーにできるような社会教育ができていけば良いが、そこまでは難しいと思う。個人情報条例がありコミュニティーづくりは難しいところがあると思う。5つの公民館は充実させたからそこで機能が全部できるというのは甘い。

事務局：公民館運営審議会で今年度教育委員会が諮問をし、改めて今後の公民館の活動の理念を静聴させていただいた。その中で、豊科と穂高については違う地域、特に明科や堀金に比べて約3倍近い人口からすると、公民館活動の単位が少し大きいのではないかと。小学校区単位、あるいは中学校区単位での公民館整備等についても議論をいただいた。児童館・児童クラブも含め、学校に近い所で社会教育の活動、そういうものがあったとしても良いのではという中で議論をいただいた。公民館の整備を、増改築や耐震補強をしていく中で、それらについては検討が必要ではないか。当面は今の形の中でという方針だが、引き続き検討が必要。まち・ひと・しごとでも25年後は7万8千人くらいになってしまう。それを色んな政策の中で8万3千人にしていこうと計画をしていく中で、地域により密着した公民館活動が必要だと認識している。もう少し先の課題としては、児童館だけをどこかにするとか、児童クラブをということだけでなく、それらを踏まえた中でももう少し先はそのような視点も入れながら整備を目指していきたい。お金のかかる話、新たにそこにすぐ作るのではなく、学校等、近接なり余裕教室等ができればそういう所で活動の拠点をそういう単位でしていけるような検討を引き続きしていきたい。

委員：学校教育の現場と地域が密着したものの考え方ができる。この先10年、20年を考えた時、そういうことができるように考えていただきたい。学校と地域との距離感は塞がりそうで塞がっていない、現在。そういう所が壁。空き教室等できてくる、自然と恐らく、この先は。

事務局：それについても今スクールサポート事業ということで、各小中学校、多くのボランティアの皆さん等、協力をしていただいて、学校を支援していただいている。信州型コミュニティースクールを進めていこうということで、より学校が地域に開かれた学校にしていくということで、現在やっているスクールサポート事業を更に充実させて、29年度には全ての小中学校で、安曇野らしい信州型コミュニティースクールを、今のスクールサポート事業の更なる充実を図ろうということで進めている。その中で今あった視点も是非共にやっていきたいと考えている。

会長：他にいかがか。

委員：児童クラブの利用時間について、条例上は8時から開始、保護者アンケートからのニーズで、早い時間から、8時だと児童を置いて仕事になかなか間に合わないということで、土曜日・長期休み中については社会福祉協議会の持ち出しで人を充てて7時半から預けられると、去年今年とやっている。一定のニーズがあり、市に毎年報告しているが、条例の変更の可能性は考え得ることなのか。

事務局：ニーズがあるということであれば、条例の改定も検討していきたい。

会長：他によろしいか。無ければ以上を以って議事を終了する。